

新型コロナウイルス感染防止ガイドライン

(公社) 北海道鍼灸師会
会長 稲垣 吉一
危機管理研修委員会
是元 佑太

令和元年 12 月に中国湖北省周辺で発生した新型コロナウイルス感染症は全世界的かつ急激な勢いで感染者数が増加しています。緊急事態宣言を発令し約 1 か月が経過したが収束の目処が立たず、期間の延期を余儀なくされている状況です。新型コロナウイルス感染から施術者、スタッフや患者を守るために、以下の感染防止ガイドラインを作成しました。標準予防策の徹底、新しい生活様式を遵守し日々の業務に励んでいただきたく存じます。

院内施術の場合

【 始業前 】

- スタッフの検温、体調チェック（感冒症状の有無など）を行う。
- スタッフ同居家族の健康状態を申告してもらう。
- 感冒症状があるスタッフや新型コロナウイルス感染症疑いの同居家族がいる場合は業務を行わない。

【 業務全般 】

- 施術者（スタッフ）は必ずサージカルマスクを着用する。（布マスク不可）
- 患者にもマスクを着用させるのが望ましい（布マスクでも可）
- 施術前、施術後の手指洗浄・アルコール消毒を徹底する。また、一人の施術者で同時に複数の患者を施術する時は、施術患者を交替するごとに、手洗いと手指消毒を徹底すること。
- 鍼灸院入り口に、発熱や咳など感冒症状のある方は施術できない旨を掲示し、入室をお断りする。
- 来院された方すべての人に、一番初めに手洗いと手指消毒を行ってもらう。
- 施術前に必ず予診を行う。疑わしい症状がある場合、施術は行わない。
 - ※ 微熱であっても、症状がある場合は念のため施術を行わない。
 - ※ 解熱剤・総合感冒薬等を服用している場合もあるので留意する。
 - ※ 新患（日常生活パターンや行動範囲が把握できない患者）の受け入れには特に注意する。
- 室内で患者同士が十分な距離（2 m 以上）を取れるように調節する。
 - ※ 例えば予約制にし、来院時間を調節する等、患者が同じ空間に一定時間居ることを回避する。
- エアロゾルにも注意が必要な為、換気扇の使用や、2 つの窓を同時に開けるなど室内の換気を頻繁に行う。（最低でも 1 時間毎）
 - ※ エアコンでは換気の機能は乏しく、またエアロゾルを拡散させてしまう可能性があるため注意。
- 患者の高頻度接触部位には清拭による消毒を行う。
 - 特に、待合のイス、テーブル、備品、ドアノブ、手すり、ベッド、器具 等
 - ※ 清拭にはアルコールあるいは 0.05% 濃度以上の次亜塩素酸ナトリウム水溶液を使用する。
- リネン類・白衣等は毎日交換、洗濯する。

- トイレは感染リスクが比較的高いと考えられるため留意する。

始業前・後に清拭消毒することが重要である。トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。洗面台にはペーパータオルを設置するか、個人用にタオルを準備してもらう。（共通のタオルは禁止）

- 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用し、作業後は手洗い、手指消毒を必ず行う。

往療の場合

【 始業前 】

- スタッフの検温、体調チェック（感冒症状の有無など）を行う。
- スタッフ同居家族の健康状態を申告してもらう。
- 感冒症状があるスタッフや新型コロナウイルス感染症疑いの同居家族がいる場合は業務を行わない。
- 事前に訪問先の患者本人だけではなく、同居家族や施設であれば同居するすべての方（入居者・利用者・勤務者）の健康状態・感冒症状の有無、同居家族の健康状態を把握しておく。感冒症状や新型コロナウイルス感染症疑いのある方がいる場合は訪問しない。

【 業務全般 】

- 施術者（スタッフ）は必ずサージカルマスクを着用する。（布マスク不可）
- 患者にもマスクを着用させるのが望ましい（布マスクでも可）
- 訪問前・後、施術前・後の手洗い、手指消毒を徹底する。また、同一建物などで一人の施術者が複数の患者に施術を行う場合は、一施術毎に、手洗いと手指消毒を徹底し、次の患者に対応する。
- エアロゾルにも注意が必要な為、換気扇の使用や、2つの窓を同時に開けるなど室内の換気を頻繁に行う。（最低でも1時間毎）

※エアコンでは換気の機能は乏しく、またエアロゾルを拡散させてしまう可能性があるため注意。

- 患者の高頻度接触部位には清拭による消毒を行う。（ベッド、器具 等）

※清拭にはアルコールあるいは0.05%濃度以上の次亜塩素酸ナトリウム水溶液を使用する。

- リネン類・白衣等は毎日交換、洗濯する。
- 施術後は、リネン（タオル等）の交換を1人ずつ行う。
- 玄関のドアを閉めた後、もう一度手指消毒をおこなう。
- トイレは感染リスクが比較的高いと考えられるため、訪問先での使用はできるだけ避ける。
やむをえず使用する場合は、トイレの蓋を閉めて汚物を流し、手洗い後は持参したタオルかペーパータオルを使用する。（訪問先のタオルは使用禁止）
- 鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛る。

※現在、介護保険施設などでは、利用者家族の面会を中止しているところが多くあります。施設側から玄関で検温、体調の聞き取り、訪問時間、サインなどを求められることがありますので、素直に従うようにしてください。また、往療を断られる場合がありますが、施設利用者の命を守る行動に理解を示してください。